

サミットと全国大会との関連

「カイゼン・サミット」は、毎年「全国都市改善改革実践事例発表会」の翌日に開催している。

全国大会は、全国各地の改善優良事例が集結する場で、改善に取り組む職員が改善事例を共有するとともに、熱いエネルギーに直接触れることができる場となっている。一方、「カイゼン・サミット」は、改善運動のプロセスを共有し、各自治体によりうまく改善活動を進められるよう、対話を通じて課題やヒントを見出す目的で11年から行っている。

参加者は、前日の全国大会で高まった改善意識を伝え合い、さらに思いを増幅していく。この二つのイベントの相乗効果により、各自治体の取り組みだけでなく全国の改善活動に弾みがついている。

サミット2017

本年度の開催地は広島県福山市。約80人が参加し、まず当研究会代表の元吉由紀子が講演と「自治体改善ステップアップシート」を使ったワークとグループディスカッション1を行った。昼食時の恒例カイゼンクイズをはさみ、午後は、静岡県経営管理部行政改革課の中山雄二氏と同

県富士市行政経営課の吉野貴雄氏が長年に亘る改善取組の経緯を紹介。

続いて、グループディスカッション2では、個々が取り組む目的に応じ「自分改善」、「職場改善」、「役所改善」の3グループに分かれて活動の現状や今後に向けた思いなどを語



り合った。最後に全体で共有し、「カイゼン・サミット」本編を終了。その後、福山城内の会場で福山市職員のおもてなしにより、有志で引き続き語り合い、懇親を深めた。

参加者からの振り返り

参加者の感想には、「他市の改善に取り組んでいる人に出会えて、刺激になった」、「一人では続けるのは心細いけど、全国に頑張っている人がいると励みになる」、「全国大会の発表だけでなく、カイゼン・サミットで実践の悩みや活動の支援の実情

第14回

改善運動のプロセスを共有する「カイゼン・サミット2017 in フクヤマ」

自治体改善マネジメント研究会(*)

寺沢隆宏 長野県須坂市

など、より深みのある話を聞くことができた」、「組織の方向性をしっかりと把握した上で、改善をすることが大事だということが印象に残った」などが多くあった。しかし、目標管理意識がないという悩みや、度重なる首長交代により改善活動も二

転三転している現状、また、改善は「業務改善」のみで「戦略提案・施策改善」などの経験は全くイメージしにくい様子も見受けられた。

これからの課題と展望

参加者の感想からも、互いの活動状況や思いを共有する語り合いの場が大切だとわかる。しかし、語り合っただけではなく、改善活動自体を改善し、ステップアップしていく必要がある。

それには、改善の目的や種類ごとに、全国で取り組んでいる活動事例を分類し、情報を蓄積しておけるとよい。また、これらの情報を参考に、自分の組織が、今どのような状態にあり、今後どんなレベルアップをしていく必要があるのかを認識し、自分の組織にあった道筋を見出すことのできるような新たな場が必要になっている。

そこで、当研究会では、今回使った「改善ステップアップシート」を活用した「改善ステップアップセミナー(仮称)」を7月30日に東京で開催する予定だ。まちのめざす姿を実現するために役所全体でどう改善に取り組んでいけばよいのか、多くの自治体の悩みを解きほぐす一助をしたい。

*自治体で長年改善運動を推進してきた熟練職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で2013年に設立。自治体における改善運動が行政経営の目的や状況に応じて効果的かつ効率的に進められるよう、実践事例情報を収集、分析、ナレッジ化して情報発信、実践活用することを目的として活動している。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。共著に「地方が元気になる 自治体経営を変える改善運動」(東洋経済新報社)。